

**K.S.J.**

KAGAWA SHINREN JIHO  
KAGAWA SHINRIN KUMIAI RENGOKAI.

# 香川県森連時報

謹賀  
新年

31

平成31年1月発行(年2回/1月・7月)

新年のご挨拶

森は地球の財産です。

**JForest**

# 会長新年のご挨拶

香川県森林組合連合会 代表理事会長 木村 薫



新年明けましておめでとうございます。

森林組合の役職員をはじめ組合員の皆様方におかれましては、ご健勝にて新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げますとともに、平素より本会の業務運営につきまして格段のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、いわゆるアベノミクスの取り組みの下、景気回復期間が戦後最長に迫り、名目GDPが過去最大を記録しましたが、地方においては景気回復の実感が伴わない年であると同時に、スポーツ界ではパワー・ハラスメントなどの不祥事が相次いで浮上し大きな話題となりました。

また、昨年は6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振東部地震など、全国各地で大きな自然災害に見舞われた年となり、あらためて森林の持つ公益的機能の高度発揮と、森林を適切に維持管理することの重要性を痛感させられました。被害を受けた皆様方には謹んでお見舞い申し上げますとともに、1日も早く復興されますことを心から祈念申し上げます。

さて、本年は平成最後の区切りの年となり、迎えた新年は新天皇のご即位をはじめ、10月には消費税10%への増税など、大きな変革の年となります。

このように社会・経済の構造的な変革が見込まれる中、林業界においては来年度から、適切な経営管理が行われていない森林を、意欲と能力のある林業経営者や市町村に委ねる仕組みとして「新たな森林管理システム」と、そのために必要な財源として「森林環境譲与税（仮称）」の交付が開始されることになっております。

我々はこのシステムと財源を活用して、これまで培ってきた経験を活かし、都市部から山村に至るまで、各地で森林を適切に維持管理しなければなりません。また、この貴重な財源を活用する組織として、社会に信頼される組織でなければなりません。

我々森林組合系統は、平成28年度より系統運動「JForest森林・林業・山村未来創造運動～次代へ森林を活かして地域を創る～」に取り組んでおり、「効率的かつ安定的な林業経営による、組合員の経済的利益の向上」、「林業・関連産業の活性化による、地域社会の活力創造」、「森林の持つ多面的機能の高度発揮による、国民生活への貢献」の3点を目標に掲げております。

本県におきましても、組合員・社会に信頼される開かれた組織づくりとして、コンプライアンス態勢を強化するため、同研修を通じて役職員の意識や能力の向上を図ってまいりましたが、新たな制度の開始を踏まえたうえで今後も継続して取り組んで参る所存です。

最後になりますが、会員の皆さんをはじめ関係機関各位のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、組合員の皆様方のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

謹  
賀  
新  
年

香川県森林組合連合会

代表理事会長 木村 薫

副会長理事 三角 正博

代表理事専務 道久 工

理事 有馬 督治

理事 松浦 可稔

理事 五所野尾恭一

理事 三宅 義明

理事 井上喜代文

理事 宮本 欣貞

理事 大西 洋造

理事 小野 隆

代表監事 眞部 康寛

監事 辻 烈

監事 大塚 喬三

## 報告 合法木材会員認定審査委員会開催

9月28日（金）本会2階会議室において、合法木材会員認定審査会を開催し、本会が認定している5会員の継続認定審査会を開催した。合法性・持続可能性の証明及び間伐材の確認、発電利用に供する木質バイオマスの証明に係る事業者認定については、認定期間が3年間となっており、本会が認定している5会員の認定期間が10月12日までとなっていたことから同審査会を開催したもので、出席した4名の審査員全員の賛成により5会員の会員認定を継続することとなり、本会のホームページに名簿を公表した。

## 報告 2018ウッドフェスティバル& 森とみどりの祭典に参加

10月6日（土）、7日（日）の両日、市内のイベント会場「サンメッセ香川」において、西原義一香川県副知事、宮本欣貞香川県議会議長、林・林業・林産業活性化促進議員連盟会長、十河直香川県議会環境建設常任委員長、河野潤一香川森林管理事務所長、十河土志夫高松市農林水産課長らを迎え、「森やみどりと共にある暮らし」をテーマに「第31回ウッドフェスティバル&森とみどりの祭典」が開催された。本会も香川県木材需要拡大協議会会員として参加し、「ヒノキデわくわく体験」の山コーナーを担当し、来場者にヒノキの植栽体験やヒノキの間伐体験を実施した。



## 報告 四国子どもとおとなの医療センターに 木製品を贈呈

本会と農林中央金庫高松支店は、善通寺市の「四国子どもとおとなの医療センター」に県産ヒノキで作られたおもちゃボックス1点と下足箱1点を寄贈し、10月13日（土）贈呈式が行われた。同センターに木製品を贈呈するのは今年で4回目となり、同センターの中川院長から感謝状が本会の木村会長に手渡された。同センターは、患者の回復と幸せを祈る医療スタッフの想いを、アートという媒体にして院内をより豊かな医療空間に創出するという「アートホスピタル」に取り組んでおり、同医療センターの中川院長は、「医療現場の要望を受け止めた上で工夫を凝らし、木製品を贈呈していただけるというスタイルは大変有り難く、病と向き合う子どもたちにとっても大きな励ましになる。」と感謝の意を表明した。



## 報告 平成30年度JForest全国森林組合代表者大会に出席

11月21日（水）東京都千代田区の砂防会館において平成30年度全国森林組合代表者大会が開催され、香川県内の森林組合役員13名が出席した。大会はJForest森林組合綱領唱和、主催者挨拶、来賓挨拶、来賓紹介のあと表彰が行われ、塩江町森林組合の松浦可総組合長及び小豆島町森林組合の井上喜代文組合長、仲南町森林組合の小山悦寛参事、本会の泉保 創業務課長補佐、大林みゆき総務課係長の5名が功労者表彰を受けた。大会は意見表明の後、6つの大会決議を採択し、森林・林業の再生に向けた共同行動宣言2018の報告の後、参加者全員で力強く「がんばろう三唱」を行って閉会した。

大会に先立ち、前日の20日（火）本県選出国會議員7名に林業施策の陳情を行った。



## 報告 第42回全国育樹祭に出席

11月18日（日）皇太子殿下、同妃殿下ご臨席のもと、東京都調布市の「武蔵野の森総合スポーツプラザ」において「育樹から木のある暮らしつないでく」をテーマとして、第42回全国育樹祭が開催された。式典では皇太子殿下、同妃殿下が平成8年の「第47回全国植樹祭」で天皇、皇后両陛下がお手植えされたイチヨウの枝打ちと施肥をされたほか、皇太子殿下がお言葉を述べられた。



メインテーマアトラクションでは「東京150年！森を育て、木を使うことによる持続可能な暮らしを未来へ」と題して、木場木遣保存会による木遣り唄、江戸消防記念会による梯子乗りなどが披露され、香川県の森林組合からも多数の役員が出席した。

## 報告 林業労働安全衛生 研修会開催

11月6日（火）塩江町森林組合、26日（月）香川西部森林組合、29日（木）香川東部森林組合において、林業安全技能師範 陶山芳伸氏、同宮本光芳氏を講師に迎え、林業労働安全衛生研修会を行った。研修会では昨年に引き続き、林業・木材製造業労働災害防止協会が作成した簡易リスクアセスメント記録書に基づき、グループに分かれて危険性又は有害性の洗い出しや、その低減対策を検討し発表を行った。総勢111名の林業事業関係者が出席し、チェーンソー作業従事者については、振動特殊健康診断も行った。



## 報告 香川県西地区森林組合連絡協議会発足会議開催

12月7日（金）まんのう町役場会議室において、香川県西地区森林組合連絡協議会発足会議を開催した。同連絡協議会は、構成員間の情報交換と連絡調整を密にし、森林組合が地域の森林・林業の担い手として重要な役割を果たすため、自立的経営の確立や事業の改革・活性化、組織体制の充実強化を促進することを目的としており、今後の森林環境譲与税（仮称）や新たな森林管理システム等も含め協議を行う。会議では協議会の発足と規約が全会一致で承認されたほか、会長に栗田隆義まんのう町長、副会長に本会の木村 薫会長が選出された。

## 報告 かがわ協同組合連絡協議会の 中央公園清掃活動に参加

12月15日（土）当会をはじめとする県内の11団体が構成する「かがわ協同組合連絡協議会」は、高松市の中央公園で清掃活動を実施した。同協議会は協同組合の価値や社会における役割を県民に認知してもらい、連携して新たな価値を創出することを目的に平成25年6月に設立されたもので、総勢約50名が参加、同公園や周辺の歩道の清掃を行い、本会からも参加した。同協議会による清掃活動は5回目で、使用済み切手を回収し香川県ユニセフ協会に贈呈するなどの活動も行っている。



特集

# さぬき空港公園便り

本会がさぬき空港公園の指定管理に取り組んで7年目の昨年は、夏が非常に暑く、8月上旬には取水制限が発令され9月まで解除されませんでした。冬はまだまだこれからですが暖冬傾向のようで今年の積雪は記録されていません。昨年の1月15日に公園内で20cmを超える記録的な積雪があったことを考えると、今年の冬は過ごしやすいように感じます。今年度で開催したイベントは良い天候に恵まれ多くの参加者に来園していただくことができました。

昨年開催したイベントの実績としましては、7月1日に開催した「一輪車教室」が好評で45名の方に参加申し込みを頂き、教室開始以来最多の参加者数となりました。また、例年開催している「真夏



一輪車教室

の雪遊び・夏休み宿題応援団」を8月4日に実施しました。イベント当日は、天候にも恵まれて1,167名の方に参加して頂きました。このイベントでは四国新聞社と読売新聞社の取材を受け、翌日の朝刊で記事となりました。噴水イベント「噴水でトレジャーハント」は、取水制限の影響で9月16日の開催となりましたが、日中はまだまだ気温の高い中での開催であり、多くの方に噴水での水遊びを楽しんで頂きました。今期で2回目の開催となる「香川県障がい者グラウンド・ゴルフ交流大会」は、11月3日に開催しました。この大会は大変高く評価していただいております。次回も是非当公園で開催したいとの意見が多く、次回の開催に向け、より安全で安心して利用

した。例年人気の高い「健康ミニマラソン」は、12月23日に開催しました。申込者数は155名で、当日飛び入りの参加者もいました。イベント当日は快晴で気温も高く、小学生1年生から60代の方まで皆さん楽しくマラソンをして頂けたと思います。



健康ミニマラソン

今後の大きなイベントとしては、2020年に公園が開設30周年の節目を迎えます。この為、「さぬき空港公園開園30周年記念祭」として、今年の6月にアジサイ祭りの開催を計画しています。その準備として昨年は約600本の植栽を行いました。今後更に植栽を進め、最終的には約2,000本を予定しており、空港公園がアジサイの名所となるように整備を行っていきます。

グラススキー場の利用者増加対策としては、当公園のグラススキー指導員の育成や技術向上のための研修会を8月6日に実施しました。上級者・中級者向けのグラススキー教室を毎月定期的で開催するため、より高度な指導ができるようインストラクター資格の取得を目標とし、リピーターの確保に努めていきます。



真夏の雪遊び

公園の利便性向上に関しては、改善の意見が多かった和式トイレの洋式化について、昨年最も利用の多い2箇所の洋式化を実施しました。今年は、さらに2カ所の洋式化を実施予定で、これにより公園内の大部分の洋式化が完了します。今後とも公園施設の更新とより利便性の高い施設への改善を行って参ります。



噴水でトレジャーハント

公園のPR活動では、「さぬきこどもの国」「総合園芸センター」「高松空港」「香南アグリウム」等の周辺施設との連携を進めてまいりました。具体的には、各施設のイベントの際の駐車場の相互利用やリーフレット等の設置、イベント情報の交換を密に行ってきました。さらに今年は、上記の施設と合同で空港周辺施設の案内マップを作成し、近日中に各施設で配布を開始します。

現在、来年度に向けて、多くの来園者が見込まれる花見の準備を実施中です。さぬき空港公園は、隠れた花見の名所として年々花見客が増加しており、今年も3月下旬から4月中旬まで多くの花見客で賑わうと考えられます。トラブルが発生しないよう、そしてより来園者に楽しんで頂けるように準備を進めてまいります。また、花見時期の開園時間延長は例年どおり開花予報や開花状況を考慮して、ホームページ (<http://sanuki-airport-park.com>) やその他広告媒体で広報させていただきます。

できる公園管理を行いイベントを盛り上げていきたいと思っております。11月4日に開催した「グラススキー感謝祭」では、世界大会優勝経験者の新谷起世プロのレッスン会を開催し、グラススキーが初めてのお子さんもグラススキーを楽しんでい

最後となりますが、本会がさぬき空港公園の利便性の向上やより良い維持管理業務を遂行できることも、関係各位の多大なるご支援、ご協力によるものと深く感謝するとともにお礼を申し上げます。

これからもスタッフ一同、公園の適切な管理運営と県民サービスの向上に全力を挙げて取り組んで参りたいと存じますので、これまで同様にご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



グラススキー感謝祭

